

速報：モニタリングサイト1000陸水域調査（湿原）植生調査

サロベツ湿原サイト

－北海道天塩郡豊富町－

サロベツ湿原は、北海道北部のサロベツ川流域に広がる泥炭地湿原です。その面積は日本最大級を誇り、海岸側には海浜植生に続き、学術的にも貴重な砂丘林と砂丘間湿地・湖沼群が広がっています。また、ラムサール条約の登録地でもあります。多彩な植物群落が分布しており、湿原内で見られる維管束植物は360分類群にのぼります。本サイトでは、サロベツ原生花園旧園地付近と泥炭採掘跡地近傍の2箇所に調査地を設置しています。湿原の開発や河川改修などの影響で湿原の排水・乾燥化が進行し、高層湿原や中間湿原へのチマキザサの侵入が問題となっています。



調査地付近より利尻山を望む

2024年度の調査結果概要

植生調査を7月31日から8月2日に実施しました。サロベツ湿原サイトでは、これまで、2009、2012、2014、2017、2020年度に植生調査を実施しており、今回で6回目となります。

出現植物の被度は、調査当年やその前年の天候などに左右されるため変動がありますが、全体としては大きな変化は確認されませんでした。しかし、個別の方形区では変化が見られました。サロベツ原生花園旧園地付近の調査ライン1は、湿地溝（湿原の自然の排水路）に近くチマキザサが優占する場所から、典型的な高層湿原に向かうラインですが、チマキザサが出現する方形区の中にはチマキザサの被度が増加傾向にある方形区が見られました。下エベコロベツ川の改修の影響が見られる泥炭採掘跡地近傍の調査ライン2では、チマキザサの被度が明らかに増加している方形区が確認されました。今後もこれらについて注視する必要があります。

【調査者・調査協力者】

富士田裕子（北海道大学名誉教授）、金子和広（北海道大学大学院農学院）、内田暁友（フリーランス・蘚苔類研究者）、嶋崎暁啓（ポラリス・ネイチャーガイズ&コンサルタンツ）、野原精一（フリーランス・湿原研究者）、横井謙一（日本国際湿地保全連合）



調査地周辺で確認されたミズチドリ



調査の様子
方形区に出現する種やその被度などを記録します



ライン1の高層湿原の様子
タチギボウシの開花期ですが、花がほとんど見当たりませんでした



トマリスゲの小穂
別名、ホロムイスゲとも呼ばれます